

加古川市八幡町宗佐の八幡小学校の児童が、東日本大震災犠牲者への鎮魂メッセージをタイサンボクの葉に書き、「木の葉の舟」として仕上げている。写真：全校児童約200人が取り組んでおり、発生から丸10年を迎える3月11日には、被災地から海へと流される。朝来市出身で加古川市に住んでいた児童文学作家森はなさん（1909〜89年）の代表作「じろはったん」にちなんだ活動。主人公は戦死した親友の名を記した紙をタイサンボクの葉に縫い付けて海に流し、その死を悼んでいた。

森はな顕彰会が毎年、森さんが教師をしていた高砂市をはじめ、加古川市の学



東日本犠牲者へ鎮魂メッセージ
木の葉に書き舟に
来月11日 被災地で海へ
加古川・八幡小

校などに協力を呼び掛けている。今年は約5千枚を福島県相馬市の伝承鎮魂祈念館に送り、震災発生時刻に近くの海に放たれる。

八幡小では今月12日、1年生32人が保護者有志による「じろはったん」の朗読を聞いた後、長さ約20センチのタイサンボクの葉に追悼の言葉を記した。3年1組の20人もペンを持って亡くなった人たちの分も命を大切にしまふなど口づつた。3年の佐々木樹陽君（9）は「津波でなくなった人たちにメッセージが届いてほしい」と話した。

（門田晋一）

タイサンボク（泰山木、大山木、Wikipedia）
モクレン科の常緑高木。
北米中南部原産。花期は5～7月頃。葉の表面には光沢があり、裏面は毛が密生しており錆色に見える。日本では公園樹としてよく植栽される。放置すると樹高20m以上にもなるが、よく分枝して剪定にも耐えるため、庭木として植えるところも多い。



（参考）加古川市平岡郵便局のタラヨウの木

畑啓之 2017年10月30日

加古川にも「郵便局の木」がありました。写真2枚目にその一部が写っています。
平成9年に、当時の郵政省はタラヨウを「郵便局の木」に制定し、
<https://www.u-gakugei.ac.jp/~plantgu/dokodemo/pc/043.htm>

Wikipedia
タラヨウ（多羅葉、学名：Ilex latifolia）はモチノキ科モチノキ属の常緑高木。（写真の3枚目）
葉の裏面に傷をつけるとその部分のみが黒く変色し、長期にわたって残るため、字を書いておくことができる。ここから、ジカキシバ、又はエカキシバともいわれる。戦国時代にこの葉の裏に文字を書いて情報のやりとりをしたという話もあり、これがはがき（「葉書」）の語源になったといわれ、葉書の木、郵便局の木と呼ばれることもある。

郵便局の木「タラヨウ」
タラヨウは郵便局のシンボルツリーです。
葉の裏に先の尖ったもので字を書くとその跡が黒く残るので、古代インドで手紙や文章を書くのに用いた多羅樹の葉になぞらえてその名がつけられました。一説に「葉書の木」とも言われています。（平成14年10月15日 植樹）

